

## 記入用紙

下記について、該当する項目に☑、もしくはカッコ内に回答をご記入ください。

**1 ご自身について ※主なものにひとつだけ☑を付けてください。**

(1)ご住所 戸塚区内(町丁目: \_\_\_\_\_) 戸塚区外(市区町村名: \_\_\_\_\_)

(2)ご年齢 9歳以下 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上

**2 駅またはその他の目的地までの移動について ※主なものにひとつだけ☑を付けてください。**

(1)主な行き先 戸塚駅 大船駅 藤沢駅 立場駅 下飯田駅 ゆめが丘駅 湘南台駅  
その他(駅名・具体的な目的地名: \_\_\_\_\_)

(2)(1)への移動目的 通勤 通学(□小学校 □中学校 □高校 □大学 □その他) 買物 通院  
その他( \_\_\_\_\_)

(3)(1)への主な移動手段 路線バス 送迎バス等(路線バス以外) タクシー 自家用車 自転車 徒歩  
その他( \_\_\_\_\_)

(4)(1)への移動頻度 週5回以上 週3~4回 週1~2回 その他( \_\_\_\_\_)

**3 路線バスの状況について ※該当するものすべてに☑を付けてください。**

(1)近年変化を感じていること ご自身の路線バスの利用が減った ご自身以外<sup>以外</sup>の路線バスの利用が減った 便数が減った  
混雑する時間帯が変わった その他( \_\_\_\_\_)

(2)課題として感じていること 非効率な運行(バスの連なった運行など) 利用者の減少(バス路線の維持) 便数の減少  
その他( \_\_\_\_\_)

**4 バス路線を維持していくための取組について ※該当するものにひとつだけ☑を付けてください。**

(1) 2, 3 ページ目に記載の「連節バスを導入する路線において、輸送力を確保しつつ許容できる範囲で運行便数を減らす一方で、生み出された経営資源を他の路線に再配分することで、エリア全体のバスネットワークを可能な限り維持する」取組は、必要だと思われますか。

必要  
どちらかといえば必要  
どちらかといえば必要ない  
必要ない

(2) (1)の回答の理由をお書きください。 ※(1)で「どちらかといえば必要ない」「必要ない」と回答された方は、必ずご記入ください

最後に  
お聞かせください

### 生活圏を中心としたまちづくりについて

少子高齢化により、通勤通学での移動が減り、身近な生活圏での移動が増えていることを踏まえてお聞きします。

人口構成推移の例

(俣野町)	人口	高齢化率
H11	6,245	12.5%
R3	4,802	45.4%

(1) 現在、買物や通院、余暇活動等、日常生活に必要な用事を済ませている場所、すべてに☑を付けてください。

鉄道駅周辺 原宿周辺 その他駅以外の場所( \_\_\_\_\_)

点線枠内に☑した方 鉄道駅周辺以外の場所で済ませられる用事、すべてに☑を付けてください。

買物 通院 余暇活動 その他( \_\_\_\_\_)

(2) 鉄道駅以外の場所(身近な生活拠点等)で用事を済ますために、現在足りないものすべてに☑を付けてください。

商店 医療機関 娯楽施設 その他( \_\_\_\_\_)

その他、この意見募集の内容に関するご意見を自由にご記入ください。

※アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

## 戸塚区南西部で バス路線を維持していくための取組について ご意見をお聞かせください



横浜市と神奈川中央交通株式会社(以下「神奈川中央交通」)は、戸塚区南西部におけるバス路線の維持に向けた取組を進めており、主要バス路線の運行効率化と、それにより生じた経営資源をその他の路線へ再配分し、**エリア全体のバスネットワークを維持する取組**を検討しています。2, 3 ページに取組の素案を記載していますので、この取組の実施を想定してご意見をお寄せください。

### 募集期間・回答方法・お問合せ先

**募集期間** 令和3年10月1日(金)から10月21日(木)まで(当日必着)

**回答方法** 次の①または②の方法によりご意見をお寄せください。



①下記ウェブサイトのアンケートフォームからご回答ください。

バス路線の維持・充実に向けた走行環境整備事業 ウェブサイト:

[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kotsu/bus\\_kotsu/soukou/soukoukankyoku.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kotsu/bus_kotsu/soukou/soukoukankyoku.html)

②裏面の記入用紙にご記入いただき、下記の「ご提出先」まで、郵送、ファクス、Eメール、直接ご持参にて、記入用紙をご提出ください。(1枚につきお1人ご回答ください。記入用紙はコピーでも構いません。また、上記ウェブサイトからダウンロードもできます。)

#### ご提出先1 お問合せ先

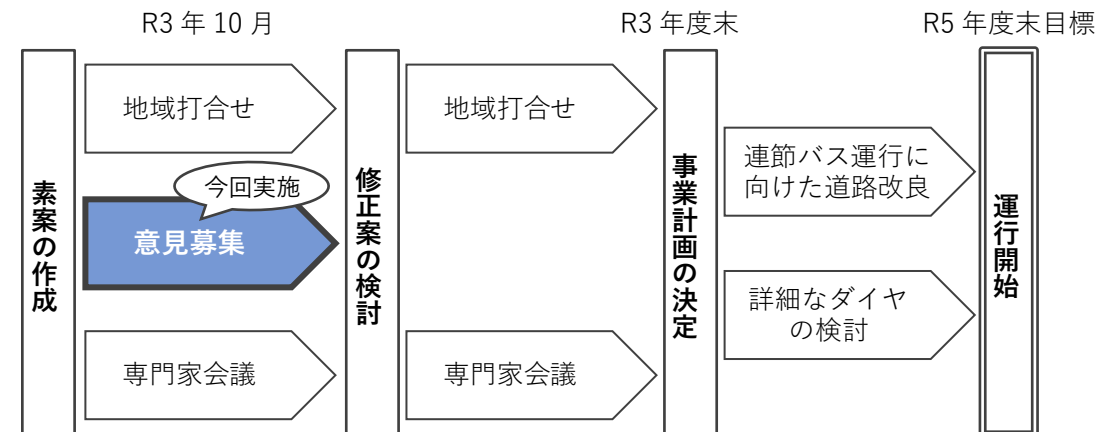
横浜市道路局企画課(交通計画班)  
 〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10  
 電話: 045-671-3800 ファクス: 045-651-6527  
 Eメール: do-koutsuu@city.yokohama.jp

#### ご提出先2

横浜市戸塚区政推進課(区役所9F93番窓口)  
 〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16番地17  
 電話: 045-866-8326 ファクス: 045-862-3054  
 Eメール: to-kusei@city.yokohama.jp

### 取組スケジュール・意見募集の位置づけ

現在、神奈川中央交通が作成した素案について、関係の深い地域の皆さんとの打合せや専門家会議でご意見を伺っており、並行して、この意見募集により広くご意見を伺うものです。

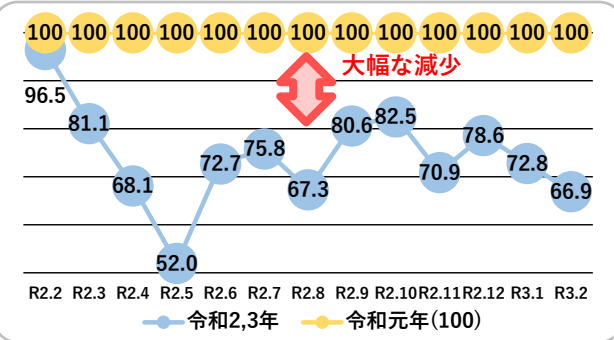


取組の背景

利用者の減少と乗務員不足によるバスサービス水準の低下

近年、少子高齢化による利用者の減少や、地下鉄の開通、生活スタイルの変化等により、戸塚区南西部における利用動向は大きく変化しています。また、大型二種免許保有者の減少・高齢化により、運転士も不足しており、利用実態に合わせた運行便数の調整（減便等）が必要な状況です。

加えて、コロナ禍によるテレワークや外出抑制などにより、路線バスの収支状況はさらに厳しい状況になっており、利用者の減少→収支悪化→減便→さらなる利用者の減少という悪循環が生じかねません。



コロナ禍による利用者の減少  
(関東管内の路線バス輸送人員の推移：令和元年基準)

目指すもの

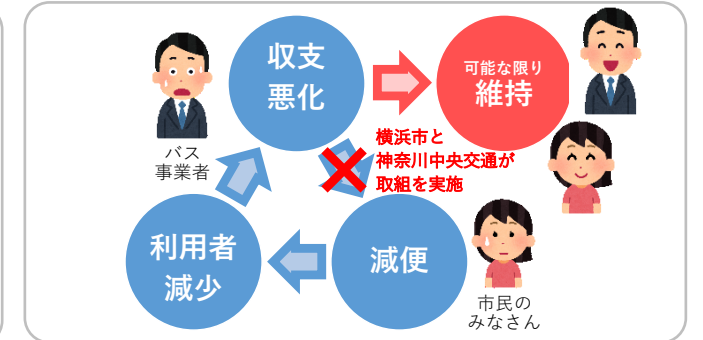
運行効率化と再配分によるバスネットワークの維持

そこで、横浜市と神奈川中央交通は、連節バスを導入する路線において、輸送力を確保しつつ許容できる範囲で便数を減らす一方で、生み出されたバス事業者の経営資源を他の路線に再配分することで、エリア全体のバスネットワークを可能な限り維持することを目指しています。

※収支改善のため、利用実態に合わせた減便等が避けられない状況であり、連節バスを導入しても、将来的にはエリア全体のサービス水準が今より低下する可能性もあります。



取組の実施イメージ



悪循環の改善イメージ

取組を実施する路線と実施内容の全体像（平日）

※実施する取組の内容や停車するバス停、運行間隔等は現時点での想定であり、関係者との協議や、将来的な利用状況に応じて変更となる場合があります。

基本  
の取組

戸塚方面 連節バスの導入

乗車定員が約2倍の連節バスを導入し、輸送力を確保しつつ許容できる範囲で運行便数を減らす一方で、バス事業者の経営資源を生み出します。

「俣野公園・横浜薬大前バス停⇄原宿バス停」の1時間あたり便数（目安）			
	取組前	（最小・最大の運行間隔）	取組後
朝（戸塚方面）	17便	(3~6分)	<b>13便</b> (3~10分)
昼※1（両方向）	7便	(4~13分)	<b>5便</b> (6~20分)
夕（ドリームハイツ方面）	11便	(4~10分)	<b>7便</b> (4~15分)

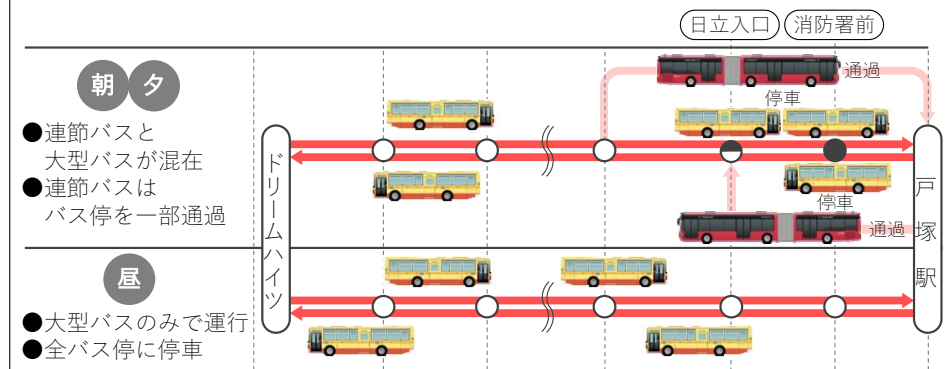
  

「原宿バス停⇄戸塚バスセンター」の1時間あたり便数（目安）※藤沢発着を含む			
	取組前	（最小・最大の運行間隔）	取組後
朝（戸塚方面）	20便	(1~5分)	<b>17便</b> (1~10分)
昼※1（両方向）	10便	(1~9分)	<b>8便</b> (1~20分)
夕（ドリームハイツ方面）	15便	(2~6分)	<b>11便</b> (2~10分)

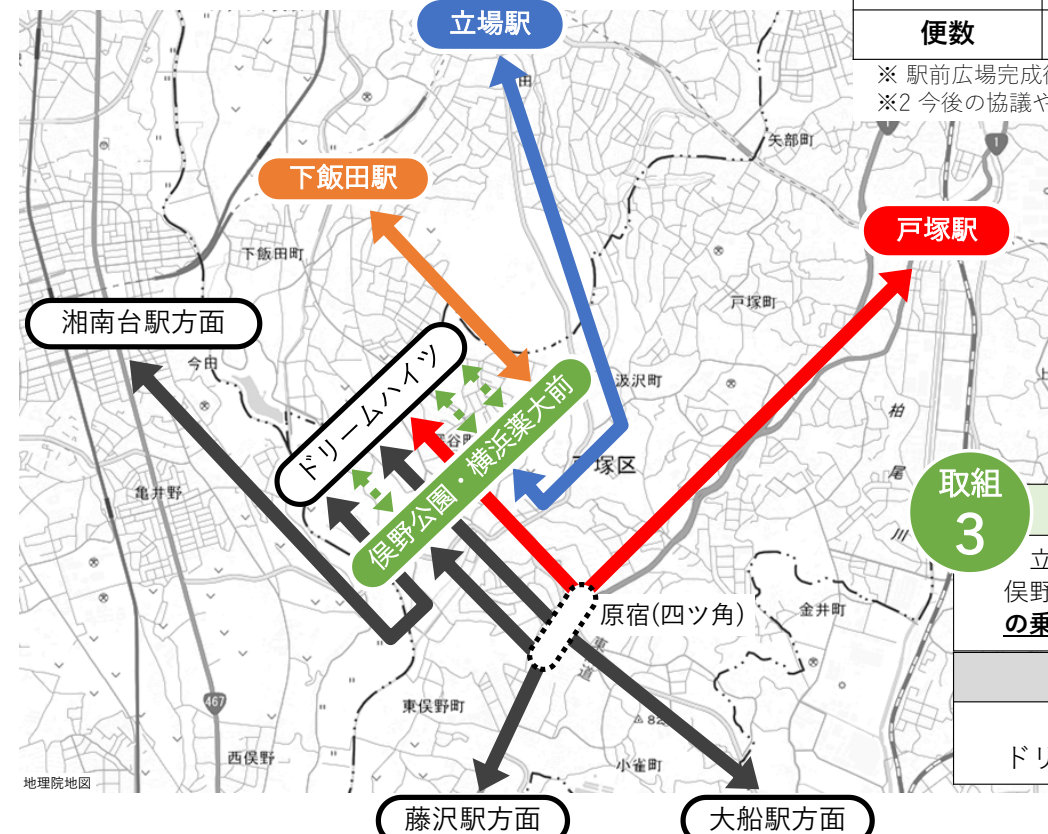
※1ダイヤ全体の見直しにより、連節バスが運行する朝夕以外にも一部便数が変わる可能性がある時間帯が存在するため、参考に記載しています。

連節バスによる運行のイメージ

- ①ドリームハイツ⇄戸塚バスセンターの路線に導入
- ②朝と夕方に、大型バスと連節バスが混在して運行（昼は大型バスのみ）
- ③連節バスは、日立入口（戸塚方面）と消防署前（両方向）を通過予定



連節バスを導入する路線において、輸送力を確保しつつ許容できる範囲で運行便数を減らす一方で、生み出された経営資源で他の路線の強化や維持に取り組みます



取組  
1

下飯田方面 収支の悪い路線の強化

- 収支の悪い下飯田方面の路線について、利便性を高めます。
- ①朝の通勤通学に合わせて、下飯田駅方面の始発を早めます。
- ②夜の帰宅に合わせて、俣野公園・横浜薬大前方面の最終を遅くします。
- ③上記を含め、運行便数を増やします。

運行時間帯	取組前		取組後	
	下飯田方面	始発	8時57分	<b>6時台</b>
俣野公園・横浜薬大前方面	最終	19時54分	<b>20時台※2</b>	
便数	1時間あたり便数		0~2便	<b>0~2便</b>

※駅前広場完成後の下飯田駅で折返しした場合の想定です  
※2今後の協議や利用状況等に応じて変更となる場合があります

取組  
2

立場方面 路線の維持

利用者の減少により廃止が検討される可能性のある、立場方面の路線について、当面路線を維持します。

取組前	取組後
廃止の検討可能性	<b>当面路線を維持</b>

取組  
3

俣野公園・横浜薬大前での乗継強化

立場・藤沢方面からドリームハイツ方面への直通路線はありませんが、俣野公園・横浜薬大前での乗継割引等の検討により、立場・藤沢方面等への乗継を強化します。

取組前	取組後
立場・藤沢方面からドリームハイツへの直通なし	<b>乗継割引等の検討</b>